

## 歴史復元画と考古学

## 第2回 歴史復元画と考古学

日時 2014年1月25日

場所 石川四高記念文化交流館 多目的利用室3

1. 吉田泰幸(金沢大学国際文化資源学研究所センター)「縄文人はどのように描かれてきたのか」
2. 安芸早穂子(歴史復元イメージ画家)「縄文人をどのように描いてきたのか」
3. 小山修三(国立民族学博物館名誉教授)「なぜ『おしゃれ』な縄文人を描こうとしたのか」
4. 対話「これから縄文人をどう描くのか」

セミナーシリーズ第2回は、歴史復元画家でありアーティストの安芸早穂子氏と、国立民族学博物館名誉教授の小山修三氏を迎えて開催した。

吉田は学生の時に二人のゲストスピーカーの作品を週刊朝日百科の『縄文人の家族生活』で目している。ステレオタイプの原始人像とは異なり、その色彩も含め非常に印象的だったが、私が目にしたのは2003年の新訂版で、1986年の最初のバージョンは半裸の縄文人が表紙であり、安芸・小山氏ともに二つの表紙の違いに言及することから話を始めたのが印象的であった。

アートルとの打ち合わせで、「復元」をテーマのひとつとする構想が出てきた中で、安芸・小山氏による復元画のことは頭に浮かんだが、両氏と全く面識はなかった。その中で、安芸氏がフランス人考古学者のニコラス・ゾルジン氏の日本の考古学研究者へのインタビュー調査(後にZorzin2013として出版される)のコーディネーター的役割をしていること、金沢もその候補地となっていることを耳にし、

SNS経由で安芸氏と連絡を取ったのが第2回の発端である。その後、安芸氏より小山氏もゲストスピーカーとして加えることが提案され、このような構成となった。

広報用のチラシには、安芸氏から複数提案された縄文時代の復元画のうち、長野の御柱祭に着想を得て描かれたダイナミックな構図のイメージをレイアウトさせていただいた。このインパクトは相当にあっという間に、用意した会場では座席が足りないほどの参加者があった。このセミナーシリーズに大きく弾みがついた転換点であったと今にして思う。復元イメージの提供を快諾してくださった安芸氏には、その後のセミナーにも毎回参加していただき、貴重な発言をいただいている。重ねて感謝申し上げたい。

なお、冒頭の筆者の趣旨説明を兼ねた「縄文人はどのように描かれてきたのか」は音声記録をもとにはしておらず、重要部分の要旨のみである。

文化資源学セミナー Seminar on Cultural Resource Studies  
主催：金沢大学国際文化資源学研究所センター 国際文化資源学研究所センター  
共催：金沢大学大学院人間社会環境研究科 文化資源マネージャー養成プログラム

「考古学と現代社会」第2回  
Archaeology and Contemporary Society – Representation of Archaeology in Japan 2  
歴史復元画と考古学 Art & Archaeology: Artist as Interpreter and Archaeologist

1 吉田 泰幸 YOSHIDA Yasuyuki  
(国際文化資源学研究所センター)  
縄文人はどのように描かれてきたのか  
How have Jomon People been drawn ?

2 安芸 早穂子 AKI Saho  
(歴史復元イメージ画家)  
縄文人をどのように描いてきたのか  
How have I drawn Jomon People ?

3 小山 修三 KOYAMA Shuzo  
(国立民族学博物館 名誉教授)  
なぜ『おしゃれ』な縄文人を描こうとしたのか  
Why did we try to draw fashionable Jomon People ?

4 対話：これから縄文人をどう描くのか  
司会：ジュリアン・アートル John ERTL  
(国際文化資源学研究所センター)  
歴史復元イメージ画家 × 考古学者 × 人類学者 × 参加者  
Dialogue : How will we draw Jomon People in the future ?  
Artist × Archaeologist × Anthropologist × Participants

2014  
1/25 (土)  
13:30 ~ 17:30

大塚の縄文時代の人々、「縄文人」に対して、  
われわれはどのように描いてきたのか、  
どのように描いてきたのでしょうか。  
また、これらどのように描くのでしょうか。  
多くの歴史家や考古学者が描いたイラストレーター、  
考古学者、歴史家や考古学者の経験や研究、  
研究成果をもとにした新たなイメージの探求だけでなく、  
アートと考古学の両方から、もめます。  
\* 歴史復元は日本発です。 Official Language in Japanese.

後援：石川 四高 会  
Tel. 076-264-5862 EMail yoshij@ipcstaff.kanazawa-u.ac.jp

場所：石川四高記念文化交流館 多目的利用室3  
金沢市F1区石川1-1-1 石川四高記念館 7階南口